

同じイモリでも違う|飼育下でのアカハラとシリケンイモリの水温とレイアウト

アカハライモリとシリケンイモリの水温が違うのには生息地が関係しています。

シリケンイモリは沖縄などの温かいエリアに生息していますが、アカハライモリは本土に生息しています。

そのため、本土と沖縄エリアで水温が違うため、アカハライモリとシリケンイモリを飼う時はそれぞれ水温を合わせる必要があります。

アカハライモリは水温15℃～20℃、シリケンイモリは26℃～28℃で寒さに弱いので冬場は特に水温に注意しましょう。

そして、夏場は水が傷みやすいので、シリケンイモリを飼う場合は最低でも2週間に1回の頻度で水替えをしてください。

シリケンイモリもアカハライモリもちゃんと水替えをしていれば病気にかかりませんが、何か月も傷んだ水の中で生活をさせると、こんなことが起こります。

- ・食欲が落ちる(拒食になる場合もある)
- ・背中にカビが生えることがある
- ・水に入らなくなる

イモリは種類に関係なく綺麗な川にしか生息していないので、水温とともに水質の管理も行ってください。

そして、アカハライモリとシリケンイモリは住んでいる環境が違うため、同じ水槽で生活させることはできません。

同じ水槽に入れてしまうと、どちらかが死んでしまうか脱走してしまう事故が起こりますので絶対にしないでください。

イモリを飼う時にはレイアウトにも気を遣いましょう。

水の中だけでなく、陸地でも生活をするので、小さな石やアクアリウム用のブロックを置いてあげてください。

床には砂利を敷いてフェイクの水草などを入れてあげると見栄えがよくなります。

それだけでなく、個体によっては水草の上に乗って休むこともありますから入れてあげると喜ぶかもしれません。

そして、レイアウトで気を付けないといけないことは、脱走防止です。

拘って色んなものを水槽に入れた結果、イモリが逃げてしまうトラブルがよく起こります。

水を循環させる機械のチューブやヒーターのコードをつたって、外で出てしまうのです。

また、高さのあるオブジェを入れておくと、水槽の蓋の隙間から逃げ出してしまうことも。

シリケンイモリを飼う時は、逃げないように蓋をしてコードは上りにくくしておくことがポイントです。

逆にアカハライモリは、大き目の虫の飼育ケースで飼うこともできるので、脱走をそこまで気にしなくても安心して飼育ができます。

レイアウトも砂利を敷いて陸地を作るだけでOK。

同じイモリでも、生息地で水温が異なり飼育の仕方も違います。

イモリは飼育難易度が低い両生類としてとても人気がありますが、水替えが面倒になり途中で飼育放棄をしてしまう人も。

アカハライモリとシリケンイモリも寿命がとても長いので、生きているうちは水の管理は必須となります。